

## 生き延びた湿原植物

生物の生育に水分は欠くことのできない要素で、潤沢な水分に恵まれた湿地は多くの生きものたちの格好の生育地となっています。一方、高い山からいきなり海へと流れ下る急峻な地形の多い日本には、恒常的にゆったりとした流れの水辺は少なく、それは、湿原の少ないこと、湿原が存在しても狭いことと関係しています。このようなことから、日本の湿原は特に重要視され保全の必要性が生じているのです。



**サワギキョウ**

(キキョウ科)

猪の瀬戸湿原では永く放置された状態が続いて、上流から流入した土砂で湿地の一部が埋まり、樹木が茂り始めました。湿地が埋まると地面は乾燥化し、樹木が茂ると日当たりが悪くなり、湿地の植物のにとっては適地とはいえなくなります。そしてやがては消滅してしまいます。私たちは湿地に特有な生き物が消滅する前に、以前の湿原環境に戻すための活動に取り組んでいるのです。これまでおこなってきた活動で、猪の瀬戸湿原で消滅を免れ生き延びたミズチドリ、サワギキョウ、エゾミソハギ、シラヒゲソウ、アケボノソウ、食虫植物のモウセンゴケ、ミミカキグサなど貴重な湿原植物を再確認することができました。



**エゾミソハギ**

(ミソハギ科)

しかし、まだ未確認の種もいくつかあります。湿原植物がすべて美しい花を咲かせるわけではありませんが、可憐な花をつける植物は心無い人に持ち去られる危険性があります。微妙な自然環境でしか生きながらえることのできない植物を持ち帰っても人の手で管理することは無理です。枯らしてしまうことは明らかです。自然の中で生きていく姿を慈しむよう呼びかけ、貴重な自然、貴重な種（遺伝子）を未来へ引き継いでいきたいものです。



**モウセンゴケ** (モウセンゴケ科)



**シラヒゲソウ** (ユキノシタ科)